



第80回全国高等学校野球選手権大会・北大阪ブロック決勝進出(1998年夏)

尚和会 会報

尚和会総会のご案内

平成11年5月16日(日)

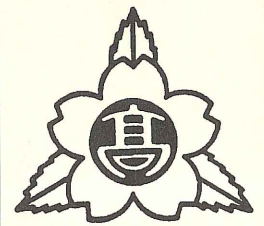
ホテル・アイボリーにて(豊中駅東口すぐ ☎06-6849-1111)

- ◆総会……………12:00~12:30(受付11:30~)
- ◆立食パーティー……12:45~15:00
- ◆アトラクション……●『マリンバ・カンパニー』打楽器演奏
●お楽しみ福引
- ◆会費……………5,000円('95年以降の卒業者2,500円)

より幅広い聴衆の皆さんに、
マリンバ・カンパニー 打楽器の魅力と可能性を紹介していくことを目的に、
《プロフィール》
様々な音楽大学出身のフリープレイヤーらによって
1989年に編成されました。マリンバの美しい音色
と一糸乱れぬアンサンブルの迫力は圧巻であり、華やかな衣装による明るく楽しいステージは、親しみやすい選曲により、年齢を問わず好評を博している。



99
平成11年5月1日



発行——尚和会
発行責任者 荻野哲男
編集責任者 田中 渡



会長挨拶

尚和会会長

荻野哲男

昨年は、戦後最悪とも言われる経済不況下、金融機関の相次ぐ破綻、失業率の増加等が社会の混乱と不安を招きました。本年も引き続き先行き不透明な厳しい経済情勢が続くものと思われま。

朝の来ない夜はないと申しませんが、明るい明日が来ることを期待して、今年こそお互いに、笑顔で、心なごやかに、楽しい社会作りを励むことができる年であって欲しいと願う次第です。

さて、昨夏、第八十回を記念して全国高校野球選手権大会が行われましたが、わが桜塚は活躍をし、北大阪大会において、三十二年ぶりの準優勝を成し遂げました。

甲子園への出場は惜しくも逃しましたが、私学優位の北大阪大会でのこの度の活躍は、公立校桜塚の名を府下に轟かせ、同窓会は言うまでもなく、母校の全てのクラブ活動にとりまして、大変よい刺激になったことと思います。

藤井寺球場での決勝戦当日、学校、PTA、OB会、同窓会が一体となって我を忘れて応援ができたことは、大変意義深いものと考えます。

また、二時間あまりの間ではありましたが、青春の昔日に戻ることができ、感動の一時を過ごさせて貰いました。

後輩諸君！ ありがとう！！

今後は、尚和会の活性化を視野に入れて、母校のクラブ活動の支援をOB会と共に展開していくことが大事なことと考えます。

次に、尚和会の財政再建の一環として、二年前から皆様方に周知徹底をしております。本年度より実質有料制については、本年度より実施させていただきます。

当初懸念しておりました、有料制にすることにより生ずる協力金の目減り、また年会費(購読料)の入金状況等については、当初の予想を覆し、昨年の倍額の協力金を頂戴致しております。

これもひとえに、会員諸兄弟の尚和会に対する、温かいご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げます。

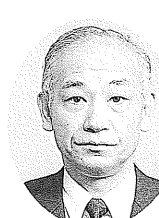
この財政の再建のほか、会則の本旨に則り、理事及び評議員の整理と充足、特に二〇〇期以降にその必要が大であります。また一昨年発足しました東京支部について

は、支部本来の諸活動が早期に実現できるよう、本部の支援がぜひ必要です。さらに、昨年より実施しております業者委託による事務処理のコンピュータ化による事務は、名簿整理に必要なマニュアルの作成等、一年が経った今、まだまだ検討の余地を残しております。

以上、尚和会が抱えております当分の課題については、単年度で終わるべくもなく、本年度もまた、引き続き鋭意取り組んでいく所存でございます。

若くは、世紀転換期を迎えて、大変革期に入っておりますが、尚和会もまた時代に遅れないよう、広い視野と先見性をもって、前述の会行有料制のように必要な改革は行わねばと考へます。

二十一世紀は目前に迫っております。新世紀に飛躍する尚和会を目指して、改革と創造に重きを置いて取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成十一年四月一日 就任のご挨拶

桜塚高校校長

関谷茂紀

さて、四月一日付で福山勇前校長の後任として大阪府立東大坂養護学校より転任いたしました関谷(せきや)でございます。創立六十二年目を迎える伝統ある本校に勤務するその職責の重さを痛感しております。

これまで第五・七学区で勤務

は、支部本来の諸活動が早期に実現できるよう、本部の支援がぜひ必要です。さらに、昨年より実施しております業者委託による事務処理のコンピュータ化による事務は、名簿整理に必要なマニュアルの作成等、一年が経った今、まだまだ検討の余地を残しております。

以上、尚和会が抱えております当分の課題については、単年度で終わるべくもなく、本年度もまた、引き続き鋭意取り組んでいく所存でございます。

若くは、世紀転換期を迎えて、大変革期に入っておりますが、尚和会もまた時代に遅れないよう、広い視野と先見性をもって、前述の会行有料制のように必要な改革は行わねばと考へます。

二十一世紀は目前に迫っております。新世紀に飛躍する尚和会を目指して、改革と創造に重きを置いて取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さらに、玄関に立つプロンズの少女像「ほむら野」に、なぜか、教頭として府立清水谷高校へ赴任したその年、校庭で空襲の犠牲となつた同窓生と恩師の五十回忌慰霊祭が多数の級友によつてとり行われたことが思い出されましたが、後で六十周年記念誌を拝見し、本校にも時代の悲しい出来事が同じようにあったことを知りました。

さて、二十一世紀も目前に迫つて参りました。激動の社会の中で今や、学校教育においては、様々な問題を抱えつつ、解決のための教育改革が必要となつております。昭和四十六年、学校教育のあり方について、中央教育審議会から「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」が、また、社会教育審議会からは「急激な社会の変化に対処する社会教育のあり方について」がそれぞれ答申されました。

社会の構造や環境の急激な変化にもなつて教育のあり方が、すでにこの頃から火急のものとして問われていました。その後、生涯教育についての答申や臨時教育審議会からの答申、回を重ねて中央教育審議会や教育課程審議会からの矢継ぎ早な答申が発表されてきました。

大阪府では、昨年大阪府学校教育審議会からこれからの教育の在り方について答申されました。

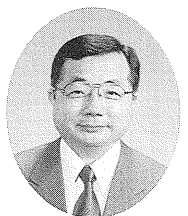
皆様の母校が、今後一〇〇年、二〇〇年と発展していくために如何にあるべきか、と考へるとき、必要とする改革ならば非常に慎重に、そして大胆に行わねばならないと思ひます。伝統とは、社会の変化に機敏に対応して生きぬく力でもあると思ひます。尚和会の皆様、再び、「ほむら野」に少女が立つことのない平和な社会、一人ひとりの人権が大切にされる社会を願つて頑張りたいと思ひますので、どうかご支援の程よろしくお願いいたします。

平成七年四月一日付で本校に赴任して以来、はや四年の月日が経ちました。そして、本年三月三十一日を以て、三十五年間の公立高等学校での教職生活に、無事、終止符を打つことができました。

教職生活の最後の四年間を、この歴史と伝統のある桜塚高等学校で過ごすことができましたことに感謝いたしております。それは礼儀正しく、品がよく、心優しく、思いやりのある生徒たちからさまざまな感動を与えてもらったことや、それを支えておられるすばらしい保護者の方々から戴いたご協力・ご支援、更に青春時代の一時期をともに過ごしたという縁によつて、強い絆で結ばれた尚和会の会員の皆様方から寄せられたさまざまな形でのご支援への感謝でありま

す。今日のこの日を迎えることができ、喜ぶことができました。心から感謝し、喜ぶことができました。この周りの方々の温かいご指導とご協力・ご支援があったればのことであると想っております。この間、多くの教職員・保護者・各学校の同窓生・地域の方々との出会い、さまざまな形の交流ができ、学び合い、助け合うことを通して生徒たちとのさまざまな拘わりを円滑にし、より良い指導の在り方を探求する契機となり、授業の創造をはじめ、いろいろな形の師弟関係・友人関係を構築することができ、私にとっての教職生活をなんとか全うすることができたと思っております。

とりわけ、同窓会の皆様方の母校に寄せる熱い思いと、後輩た



四年間のご支援に感謝

前桜塚高校校長

福山 勇

淡路大震災の傷痕も生々しく、体育館の屋根の防水工事、北館屋上の受水槽の亀裂充填工事、各館の階段部分の充填工事等を次々に進めていかなければ、生徒たちは落ち着いて授業もできない状態にありました。そのような時に尚和会及び七期の方々から多額の見舞金を頂戴し、学校当局といたしましては、この上ない喜びであり、本当にありがたいご支援でありました。その見舞金の一部は、早速体育館の防水工事中の部活動の場の確保に充てることができ、生徒たちに不自由な思いをさせずに済んだこと、また、一昨年の六十周年記念事業として記念誌を発行いたしました際にも多大のご協力を賜り、在校生たちに記念誌を割安で頒布することができました。そのほかにも、体育祭、文化祭、入学式、卒業式等々の学校行事にも欠かすことなく、必ず役員の方々にご参列いただき後輩たちを見守ってくださっておられる姿に接し、敬服いたしました。感謝いたしました。

このように、同窓会の皆様方には言葉では言い表すことのできないご指導・ご支援を賜り、感謝の気持ちで一杯であります。この四年間、やり残したこともたくさ

ちの活躍に対する期待感の大きさには胸を打たれ、伝統校に勤めるものとしての責任の重さを実感したものでした。その気持ちの教例を挙げてみます。

私が赴任した年は、あの阪神淡路大震災の傷痕も生々しく、体育館の屋根の防水工事、北館屋上の受水槽の亀裂充填工事、各館の階段部分の充填工事等を次々に進めていかなければ、生徒たちは落ち着いて授業もできない状態にありました。そのような時に尚和会及び七期の方々から多額の見舞金を頂戴し、学校当局といたしましては、この上ない喜びであり、本当にありがたいご支援でありました。その見舞金の一部は、早速体育館の防水工事中の部活動の場の確保に充てることができ、生徒たちに不自由な思いをさせずに済んだこと、また、一昨年の六十周年記念事業として記念誌を発行いたしました際にも多大のご協力を賜り、在校生たちに記念誌を割安で頒布することができました。そのほかにも、体育祭、文化祭、入学式、卒業式等々の学校行事にも欠かすことなく、必ず役員の方々にご参列いただき後輩たちを見守ってくださっておられる姿に接し、敬服いたしました。感謝いたしました。

このように、同窓会の皆様方には言葉では言い表すことのできないご指導・ご支援を賜り、感謝の気持ちで一杯であります。この四年間、やり残したこともたくさ

んあり、そうした皆様方のご支援にどれほどお応え出来たのか甚だ心もとない思いはいたしますが、後任の関谷校長に思いを託して塚高等学校を去ることにいたしました。長い間の心温まるご厚誼とご指導・ご支援に心からの感謝とお礼を申し上げ、皆様方のご健勝と尚和会の益々のご発展を祈念いたしました。お別れのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。ございました。

(私事で恐縮ですが、退職後は、学校法人関西金光学園金光大阪中学校・高等学校に校長として勤務することになります。これまで同様、ご厚誼賜りますようお願い申し上げます。)

つばき学校のつばき、 まゆのつばき

全日制教頭

渡邊 宏

二十世紀最後の年となりましたが、桜塚高校は穏やかな雰囲気の中で二十一世紀に入ろうとしています。夏の高校野球、大阪大会決勝戦出場以来、どの部活動も何か活気づいているようです。バスケット、バレー、卓球、吹奏楽部など近畿大会、関西地区大会、全国大会の招待などと輝かしい成績を修めています。この一年、全国各地から二十件ほど転校の問い合わせがありました。これも伝統校への強い希望の表れと思われまます。平成十年度の入試倍率は一、三九倍で、この三年は高倍率難関校となっております。また大学への進学率も高くなり、四〇〇名の卒業生のうち四年制大学に現役合格は半数にもなっています。賑やかな校内に比べて、中庭の恵風苑・恩露園の静けさは四季を通じて変

わりなく、樹々に風が通っています。惜しいことには、七号台風は樹齢七〇年位で、幹周り八〇センチのサルスベリを折ってしまいました。

さて、学校のうち、そこには様々な風が吹いています。今日ほど青少年の犯罪、非行の多さで憂慮されるものはありません。大阪の昨年のひたつきは、二十三年間全国ワーストワンであり、文部省の調査で小、中、高で昨年発生した学校内外の暴力行為は三万件といわれています。また、過日のテレビで、小学校の「学級崩壊」の光景が映し出されましたが、これは、低学年の子どものたこのころの世界に、何か異変が起きたとしか思われません。臨調や中教審で次々と教育改革の論が説かれ、その施策が学校現場に下りてきてはいますが、子どもたちの現状を大きく変えるまでに至っていないのが実態です。一連のナイフ殺傷事件を見るまでもなく、その深い歪み、決定的な方策を見出せない苦悩があります。些細なことに「ムカつき」「キレる」子どもたちの荒れは、何にストレスや不満を持ち、耐性なく暴発するのか。背景となる時代や社会の変容、わけて家庭との深い係わりがあると思われてなりません。どんなに学校のシステムを改めても状況の変革は困難でしょう。一人の子どもの成長する基盤はやはり家庭です。一人の子どもの一日の活動の羽を休め、明日飛び立つためのエネルギーを蓄えるのが家庭です。また人間としての基本的な理非など、きちんとしたしつけをするのは、やはり家庭をおいてはなしでしよう。いま子どもは家庭で寛ぎ、エネルギーを養うことなく苛々として、家を出て行ってはいないか。親が子育ての価値観を何に置いているのか、ここらあたりに解決の方策があり

そうです。「学級崩壊」の前に「家庭崩壊」があるのではないか、金銭的には潤っても、温もりを欠く家庭、成績以外その存在を認められない家庭。

平成六年度より家庭科男女共修となり、男子も調理実習をしています。休日、一度子どもに食事がくりをさせてはいかかでしょうか、家族全員が食卓につき、談笑しながら食べる、こんなアットホームな雰囲気になる方法はないでしょうか。ありふれたことの中に、豊かなところの生活体験をし、一家団らんと共にこの癒しを感じるのではないのでしょうか。

着任のご挨拶 と近況

定時制教頭

宮西 重久

夜空に美しく映えるしだれ桜に迎えられ、早一年が過ぎました。これも偏に三万人近い同窓生を抱える尚和会のみならずと全定の教職員の方々の温かいご援助があったのここと心から感謝しております。また、伝統のある本校に着任でき、喜びと期待で一杯の念があります。

さて、二十一世紀を間近にし、誰もが夢と希望をもって新しい世紀を迎えたいと願っていることと思います。しかし、学校を取り巻く環境は高度情報社会の実現で定時制生徒のみならず、学校社会や子供文化に大きな影響をもたらした様々な問題を抱えています。国の中央審議会をはじめ各種審議会からは、二十一世紀における我が国の教育の在り方について、画一的な教育から個性重視の教育への転換、社会の変化に対応し生涯にわたって学ぶことができる力を養

平成11年度 評議員会及び理事会予定表			
評議員会			
第1回	11年 9月 4日(土)	会費制(会場未定)	
2回	12年 3月25日(土)	尚和会議室	
理事会			
第1回	11年 5月 8日(土)	尚和会議室	
2回	9月 4日(土)	会費制(会場未定)	
3回	11月 6日(土)	尚和会議室	
4回	12年 1月16日(日)	新年理事会	
5回	3月18日(土)	会費制(会場未定)	
平成12年度			
総会………5月21日(日) 第3日曜日(会場未定)			

◆平成十一年度人事異動◆	
全日制課程	福山 勇 (校長)
退職	(金光大阪高等学校校長へ)
	隅田悦子 (英語)
転任	(大阪教育大付属高校池田校舎へ)
新任	柳澤 勤 (国語)
	(長吉高校へ)
	鳥谷 剛(数学)
	(池田北高校へ)
	田村修二(理科)
	(西成高校へ)
	中村勝栄(音楽)
	(池田北高校へ)
	中田勝利(保健体育)
	(桜塚高校定時制へ)
	福田悦子(実習助手)
	(刀根山高校へ)
着任	関谷茂紀(校長)
	(府立東大阪養護学校校長より)
	山口 守(国語)

◆学校行事案内◆	
〈全日制〉	体育祭 六月 十日(木)
	文化祭 九月十八日(土)
	十九日(日)
〈定時制〉	体育祭 九月二十日(水)
	文化祭 十月十四日(木)
	十五日(金)
	十六日(土)

(西成高校より)	岸本和也(数学)
(小路高校より)	鶴川 晋(理科)
(西淀川高校より)	河村光子(音楽)
(箕面東高校より)	一色愛子(英語)
(渋谷高校より)	増田美弥(実習助手)
(豊島高校より)	
定時制課程	
転任	濱口勝史(主幹)
	(岬高校事務長へ)
	明田真次(保健体育)
	(北野高校定時制へ)
着任	倉中篤子(主幹)
	(スポーツ青少年課主査より)
	佐藤陽一(社会)
	(天王寺高校定時制より)
	中田勝利(保健体育)
	(桜塚高校全日制より)
	遠藤俊六(社会)
	(茨木工業高校定時制より)

◆学校だより◆

「吹奏楽」部から

顧問 熊野 純

- 四月 新入生・歓迎クラブ紹介
入学式・校歌披露
- 五月 第九回定期演奏会
- 六月 体育祭
- 八月 大阪府吹奏楽連盟コンクール北摂大会優秀賞
同大阪大会優秀賞
きらめき賞
- 九月 豊中市吹奏楽連盟
吹奏楽フェスティバル文化祭

- 十二月 第一ブロック音楽祭
- 一月 アンサンブルコンテスト
- 二月 大阪府高等学校音楽祭
卒業式
- 三月 豊中市吹奏楽連盟
吹奏楽の集い

以上がこの一年間の吹奏楽部の演奏の記録です。

数年前より生徒達に選曲、曲作り、さらに指揮までを任せてきました。すっかりその事が定着してきました。自分達の力で曲作



りをする事によって、音楽への接し方に、より真実さが出てきたように思えますし、音楽をより楽しもうという姿勢も強くなってきたように思います。

このような吹奏楽部ですが、頭の痛い問題も抱えています。その一つは部員数の減少です。現在の部員数は二十六名で、数年前に比べると2/3になってしまいました。ただ、人数的には少なくないとは言え、日頃の練習熱心さでは昔も今も変わりません。桜塚高校のクラブ活動の中で、もっとも練習時間の長いのが、吹奏楽部ではないでしょうか。

さて、その猛練習の大きな目標が定期演奏会です。今年度の定期演奏会は第十回を数えることになりました。五月二日(日)、いつものようにアクア文化ホールで午後一時から開催いたします。後輩達の若々しい元気な演奏を聴きに、ぜひおいで下さい。お待ちしています。

「ソフトテニス」部

顧問 文珠 正子

近年、生徒数の減少に伴い、どのクラブも入部者が減っているように聞いているが、ソフトテニス部も事情は同じである。さらにソフトテニスの場合には硬式テニスと世界に通用するスポーツであるとの認識から、どちらかと言えば地味なクラブと見られがちである。実際、中学でソフトテニス部に所属していた生徒の多くが高校で硬式テニスを選んでいく。このような状況の中で、高校で初めてソフトテニス部に入る生徒もいる。

かつては「初心者」と「経験者」が数の上でも均衡し、学年によつては反発し合うようなこともあったが、最近では前者の割合が

大きくなっていて「楽しく課外活動をする」というのがクラブ活動での目標ようになってきている。だが、やはりこの両者が一つのクラブとしてうまく回転している年ほど、よい結果が生じていると思われる。ソフトテニスは二人一組のダブルスで試合が運ばれるので、一見個人スポーツのようであるが、高校でのクラブ活動としてはクラブ内のチームワークが良いほど成果が上がっている。今年度もまたそのいい例として挙げる事ができる。昨年九月の秋の新人大会で二年生の河本・木村組が第一ブロックで準優勝し、中央大会にも出場できた。更に冬季の大阪府公立高校インドア大会にも招待され、良い経験になったようだ。彼女らは一年の時からうまさが光っていたが、良さチームメイトに恵まれてこそその成果であったと思う。一年生は七名という少人数であるが、昨年十一月に行われた松田杯という第一ブロック独自の大会で準優勝を果たし、今後が期待される。卒業式後に開かれた三年生の送別会も笑いあり、涙ありの心温まるものであり、高校に於けるクラブ活動の渾身の意義を感じ



「水泳」部

—この一年—

顧問 松本 伸子

六年前、私が桜塚高校に赴任してまだ右も左も分からない状態であった頃、同じ英語科の加登先生から「水泳部の顧問、どうですか？」と声をかけられました。「はあ……」と生返事をしてるうちに、水泳部の生徒達がやって来て「顧問、お願いします」と頭を下げます。生徒に頭を下げられては、「イヤ」とも言えず、顧問承諾書に署名してしまつたのが、私と水泳部との馴れ初めでした。

実を言えば、たいいのスポーツだけは嫌ではないけれど、水泳だけはまともに習つたこともなく(育つたのがあまりに山奥で学校にプールなど存在しなかつた)、浮いているだけ……と言つても過言ではないのが実情だつたのですから、「名ばかり顧問」で許してもらおう、という甘い考えで署名したのでした。

ところが、それから四年後の一昨年、ずっと主顧問をして下さっていた加登先生が、そしてさらに翌年、その後継者たる永橋先生が、相次いで転動されて、私は茫然と立ち尽くしてしまいました。然と立ち尽くしてしまつた。技術指導も然る事ながら、まず何よりも水泳部唯一とも言える「集団を意識させる場」の合宿が成立しなくなる危惧が生じたからです。水泳部の合宿は、施設の制約もあり、従来からずっと校内宿泊という形をとってきました。学校である以上畳の部屋がそうたくさんあるわけはなく、まして寝泊りするためのベッドなど期待できるはずもなく、私達はずっと、夏の暑い盛り教室や準備室の床の上に貸し布団を敷いて四泊五日のスケジュールをこなしてきたので

す。この「床に寝る」という形態がどうも先生方の間では不人気で、なかなか顧問の引き受け手がなく、また合宿付添の引き受け手は更になく、今年度本当に合宿存続の危機という事態に陥つたのです。いっそ合宿を廃止して集中強化練習にしようか、とも考えました。が、伝統ある水泳部合宿を勝手に取り止めるわけにもいかず、また生徒達の強い希望もあつて、学校での寝泊りをOKして下さる先生を確保すべく奔走する日々がしばらく続きました。最終的には、社会科学の石田先生・化学科植木先生の御協力を得て、何とか無事校内合宿の灯を絶やさずに済んだのです。生徒数減・クラス数減による教員数の削減、さらに教員全体の高齢化という現実が続く限り、毎年毎年この合宿に関する存続の危機問題に悩まされることでしょうか、今後でもできる限り続けていけたら……と思つていきます。

さて、一年生八名・二年生十五名・三年生十名の計三十三名で出発した今年度の水泳部のトピックスは、何といつても久方ぶりの近畿大会出場でしょう。ここ数年来、地区大会でこそこの成績をあげて中央大会まで進む生徒は毎年必ず何名か(あるいは何組か)出るものの、なかなか近畿大会の壁は厚く、あと一歩というところで涙をのんできた我が水泳部ですが、今年度約十年ぶりという快挙を成し遂げました。三年生の前田洪基君が、男子二〇〇m平泳ぎで二分三四秒六三のタイムをあげ、府下五位の成績で中央大会を突破したのです。水泳と言えば私学優勢の大阪府下にあつて、この成績はまさに快挙と言えるでしょう。近畿大会当日は校内合宿と重なつて、私も一・二年生も応援に行くことができません。彼の雄姿を見ることも叶わなかつたのですが、この

四月より顧問の一員に加わつて下さつた国語科の川本先生が、開催地である滋賀県彦根市まで付いていつて下さり、一日中計時審判員としての仕事もこなしながら、前田君の活躍ぶりをつぶさくに見せて下さりました。惜しくも上位入賞は逃したものの彼はよく健闘し、また他校の強力な選手たちの活躍を見て多くのことを学んでくれたことと思います。他の部員達も、手の届くところに中央大会・近畿大会がある、ということ自身に感じ取り、良い励みになったことでしょう。ともすれば個人力量が重視される競技となりがちですが、チームとしての誇りや名誉といったものも感じてくれたのではないのでしょうか。

ただ、ここ数年新入部員の数に波があつたり、男女の比率が偏つたり(男子90名という年もありました)と、部の存続を危しかねない状態があるのも事実です。上述のように教員側の層の薄さも今後更に深刻化する可能性がありますので、部活動が抱える問題は山積していると云えます。生徒共々、水泳部の今後の在り方を考えて行かなければ……と思つ今日この頃です。

「硬式野球」部

夏に聴いた校歌

顧問 和田 充司

「トカがアヤける さつきおおぞら」

ひとつの歌の詞とメロディーが体のすみずみにまで染み入り、響き渡っているかのような感覚を、これほど覚えたことはかつてなかった。もともと美しい校歌だなと思つてはいたが、球場で聴くその歌は、真夏の猛烈な暑さなど忘れ去つてしまう程の圧倒的な

がすがしさを心に運んでくれる格別のものだった。去年の夏のことを振り返るとき、ベンチの前で五回も経験させてもらったあの素晴らしい気分がますます蘇ってくるのである。

春の府大会でベスト8に進出はしたものの最後の大会をひと月後に控えた私の中には、ある種の不安が存在していた。自分たちは本当にそれだけの実力があるのだろうか……この成績が過信や奢りにつながりはしないか……何しろ秋の新人選では一回戦で敗退して現実感を伴ったものではなかったと思う。

もっと目に見えるしつかりとした目標がほしいと考えていたそんな矢先、府の予選でも勝利校の校歌が演奏されることに決まったという知らせが届いた。まさにグッドニュースだった。「球場で校歌を歌おう。」部員たちに芽生えたこの気持が格好の求心力として働いてくれたのだ。

ベンチに入れなかった三年生(大田、谷本、中林、西頼、藤原、山川、山下)を中心にグラウンドで何度も練習したにもかかわらず、実際のそれはとうとうリズムも音程もあつたものではなく、ただただ空にむかって大声を張り上げる大合唱となった。しかしそこにいた部員、マネージャーはもとより、駆けつけて下さった教職員、在校生、OBの方々にとっては、私と同じようにこの上なく美しく力強い調べとして響いていたにちがいない。

最後の試合が終わわり、それまでの試合の後とは違って部員たちと一緒にベンチの前に整列した。やがて場内に流れる関大一高の校歌を聴きながら、その時初めて鮮

明に心に浮かんできたのは、日本一の球場で聴くその歌のイメージだった。

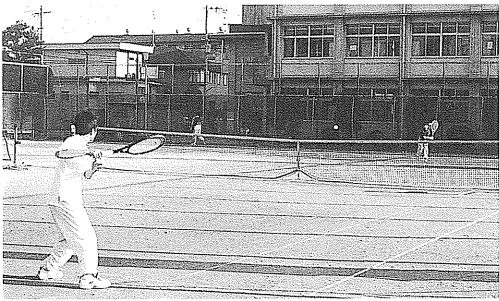
「硬式庭球」部

第一学区大会 「赤坂杯」本戦進出!

主顧問 太田 馨

昨年度、存亡の危機にさらされた硬式庭球部は、主力となる二年生の活躍により、伝統の強さを取り戻しつつある。

春の大会では、吉沢史子さんと新たに加入した丹下和人君が池田、刀根山、履正社高校等の強豪に競り勝ち、赤坂杯の本戦に出場を果たした。夏の公立高校団体戦でも予選決勝まで勝ち上がったが惜敗した。しかし、夏季高校オープンで主将の玉田晃大君が予選ブロンク優勝を果たしたのに続いて、秋の赤坂杯ではシンクス吉沢史子さんと中嶋心太郎君、ダブルス吉沢・古田美紗ペアと丹下・中嶋ペアが本戦出場を果たした。硬式庭球は競技者も多く、本戦出場は至難の技である。一・二



男女部員全員で五十名にもなるが、練習場所と時間が限られた中、協力して効果的に練習に取り組んだ結果である。この機会を利用して、献身的な指導をされた体育科松下勇先生と四十六期生OG&OBに感謝の気持ちと述べると共に、歴史と伝統ある桜塚高校硬式庭球部の復活を保護者の皆様へ報告したいと思う。

「女子バスケットボール」部 顧問 高橋 俊行

この数年、バスケットボールに対して意欲の高い女子生徒が入ってきており、好成績を残せるようになりました。部員は五十一期生四名、五十二期生七名、五十三期生五名で頑張っております。前年の新人選でベスト8に入りシードとなり、この一年はそれを守り、素晴らしい結果を残しております。二月にあつた庄内体育館での準々決勝は、二期、三期、七期のOBの方々の応援を頂き部員一同、歴史を感じながら現在練習に励んでおります。

- 一九九八年度
・インターハイ予選 四月〜六月
・ベスト16
・大阪高校総体 八月〜九月
・北地区決勝
・桜塚62―79 薫英
・中央大会
・桜塚63―55 泉北
・準々決勝
・桜塚47―64 樟蔭東
・豊中市会長杯大会優勝十月
・大阪新人バスケットボール大会
・二回戦 桜塚60―48 北野
・三回戦 桜塚84―36 小路
・四回戦 桜塚49―28 大冠
・準決勝 桜塚44―35 梅花
・決勝 桜塚43―93 薫英

尚和会会報有料制について

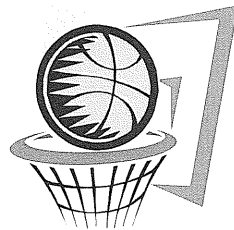
財務担当副会長 大島光昭

今お読みの尚和会会報は、本年度より有料制になりました。

- 名称 会報年会費
●年会費 1,000円 (同封の振込用紙にてお振込み下さい)
●会報発送対象者

Table with columns: 卒業年, 卒業期, 会報発送期間. Rows list graduation years from Heisei 11 to Heisei 6 and corresponding periods.

新卒者のみ、毎年卒業後5年間(住所判明者に限り)は、年会費未納入でも会報は発送いたします。また、今後会報発送期限の年が到来の各期の会員は、是非振込用紙にて翌年の会報購読の為、年会費の納入をお願い申し上げます。同期の方で尚和会会報が届いてないという話を聞かれれば、会報有料制のことをPRの上、1,000円納入をお勧め下さい。



- 中央大会
一回戦 桜塚59―37 長尾
二回戦 桜塚66―28 茨木
準々決勝 桜塚41―64 樟蔭東

この結果により四月に行われる大阪招待試合に大阪代表として出場が決定。また団体候補選手として四名が選ばれました。四月下旬から始まるインターハイ予選及び近畿大会予選で、好成績が残せるように頑張り、名門復活を目指したいと思っております。

「名所・旧跡を巡る会」バスツアーの報告とお知らせ
平成十年十月十八日、会員十二名が淡路島へのバスツアーを楽しみました。
前日から接近中の台風のため、一時は中止することも考えましたが、台風は日本海へ通り抜けたので、淡路島の目的地に着いた。淡路道の駅でお土産を買った後、台風一過、みごとに晴れ渡った明石大橋をバックに全員で記念写真を撮り、そして帰途につき、夕刻六時に岡町に帰って参りました。一日を楽しく過ごしました。

「次回予定」

月日 平成十一年十月十七日(日)
場所 京都北部丹後方面
会費 一万円
多数の方々のご参加をお願いします。

○クラブだより○

「ラグビー」部

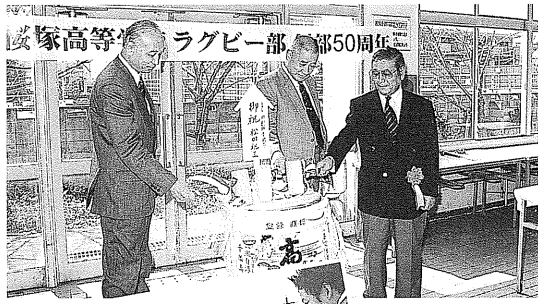
創部五十周年を迎えて

高三期 ラグビー部OB
谷田 探成

昭和二十三年四月、当時から学力優秀女性のみ行けると云われた豊中高女一通称「十四」へどかどかと荒くれ中学生が乗り込んで来て、どかどかと腰を据えて、暴れ出した。即ちこの年より始まった学制改革であり、荒くれ野郎は、当時の豊高中学及び池田中学（現在の豊高と池高）の坊主達でした。運動部といえば、女学校時代から中をさかせていたバスケット、ハンド、バレー、体操部位で、我々男子だけのスポーツはすべて新しく創らねばならなかった。野球、サッカー、山岳、陸上、ラグビー等で、すべて自主的に創り、少ないメンバーで練習し、試合の時は他部の強そうな連中にエキス

トラメンバーになってもらっていた。特にラグビーは定員が十五名必要のため、メンバー揃いには苦労が多かった。更にコーチ不足で、効率的な練習も多くできず、当初は弱小チームの汚名をよく被せられていた。

このラグビー部が今年四月、母校に兄弟校の池田高校を迎えて、グラウンドで対抗戦をやり、更に午後は尚和会議室を拝借して、五十周年のパーティを開く事が出来ました。当事者としては正に感無量の思いです。



「尚和会ハンドボール」部 祝、創部六十周年

高二十三期 福田 大輔



平成十年三月二十一日、創部六十周年記念総会が催されました。私が卒業した年に生まれた人は、当年二十七歳、我が送球部が設立された年に生まれた人は還暦を迎えるという歴史を改めて感じた総会でした。又、長い歳月を刻んだ由緒ある送球部の記念総会に出席できた事を大変光栄に思っています。大先輩の方々のお元氣な姿を拝見し、久しぶりの同期、後輩とも会うことが出来ました。又、その中で選手不足で女子クラブが無くなるかも知れないと苦境を訴えておられた現役顧問の村尾先生、柳澤先生ともお会いし、現役の後輩達と楽しくひとときを過ごせた事で、現実の日々の気苦労が吹き飛ぶと共に明日からの活力が湧いてくるような思いがしました。私は卒業から現在まで二十七年間、途切れることなくハンドボ

ールとの関わりがあり、自分の人生にとってハンドを通じた人々との繋がり大きさ素晴らしさは一言で語ることが出来ません。人それぞれに自分の人生にとって何か大切なもの、素晴らしいものがあると思います。私が私にとっては何となくオバーかも知れませんが、真にハンドに出会った事だと胸をはって言うことが出来ます。出会いの大切さ、仲間との再会を楽しみに思う年になってきたので、次の機会に一人でも多く再会出来る事を願うばかりです。

高四十九期 桑原 尚子

平成十年七月十九日、豊島体育館で行われましたハンドボール部OB・OG会にも参加させて頂きました。また卒業生間もない私にとって、OGという言葉はピンとくるものではなく、ただ一緒に頑張ってきた同期や、先輩方、後輩たちとまたプレー出来るという事が楽しみでした。アップをのんびりとやっている傍らでOBの試合が始まり、その気迫、動きに驚きました。さつきまで「久しぶりでシュートなど入るんだろうか？」と心配しながらアップをされていた方々が、すばらしいプレーに目にしたからです。その姿は、OGという言葉がまだ似合わないような私達に、私達も先輩方の年齢になってもこんなプレーをし続けたいという思いを感じさせて下さいました。

男女バスケットボール 部員だった皆さんへ

年寄りから中年まで男女混合の総会でお会いしませんか。

最近、有志が集まって食事会を開いたとき、あのころの楽しかった思い出に花が咲きました。お互いに年をとった証拠でしょう。そこで、今年の秋にでも運動具持参で久しぶりの汗を……という事になりませんか？

来る五月十六日（日）尚和会総会でお会いしませんか。

北大阪大会の決勝戦まで進出したわが母校桜塚高校の健闘ぶりは賞賛に値するし、我々先輩も本当に嬉しく感動もいたしました。

これからも野球だけでなくあらゆる面での桜塚高校のますますの発展を心から祈っております。



やってみよう！

総会終了後、ロビーにでも集まって第一回目の打合せをしたいのです。

まず、ご賛同いただけるか、次に運営の協力がもらえるか、規模は、等々。

現役時代スター・プレイヤーだった人も、私のようにそうでなかった人も、それは関係ありません。元氣だけが頼りです。

是非、総会でお会いしましょう。待っています。

よくやった!! 桜塚球児

高四期 池崎 邦夫

三十二年前の夏の大阪地区野球大会の桜塚高校決勝進出の時は勤務の都合上応援に行けず残念な思いをしました。今年の夏の北大阪大会は銀行定年退職後でもあり時間的に余裕ができたので準々決勝、準決勝、及び決勝戦と三試合の応援が実現しました。応援席は私のようなオジンは少なく、若い人が多かったのですが、私は高四期の代表のつもりで精一杯頑張りました。

私は顔には自信はありませんが大声を出すことには自信がありますので、三試合とも若い人に負けず大声援したつもりです。

決勝戦終了後ベンチの前で、主将でありながら背番号10番、控え投手としてチームを陰で支えてきた柳川君を、チーム全員が胴上げしているシーンは心を打つものがありました。

鐘のひびき

古典文学を愛された 国本照男先生を偲んで

高七期 妹尾 節子

国語の担任でもあり、あすか会、の顧問でもあった国本照男先生が、昨年四月十日にご病気で...

二年前の尚和会会報に、あすか会、のことを載せましたら会員がふえたといつて、先生はとても喜んでくださっていました...

先生は、万葉に生き万葉に死にたしと願われていた通り、古典をよなく愛され、私たちに古典への深い魅力を教えて下さいました。

先生に解説をしていただきながら何度、大和路や京都を散策したことでしょうか。古人の感動を一緒に追体験したことは忘れられることはできません。

四年程前から病気で、遠出ができなくなつてからも、あすか会、会報や、資料をつくつてくださっていました。

先生が、亡くなられる少し前に苦しい息づかいの中、藤原定家朝臣の歌を口ずさんでおられたと、奥様からおききました。

春の夜の夢の浮橋とだえして 峰に別るる横雲の空

短くてはかない夢—先生はどんなおもいを残して旅だたれたのでしょうか...

平成10年度決算報告

Table with financial data for Heisei 10. Columns include: 科目 (Category), 予算 (Budget), 決算 (Actual), 差引過不足 (Variance), 備考 (Remarks), 11年度予算 (FY11 Budget). Rows are divided into 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenses).

貸借対照表 (平成11年3月31日現在) (単位:円)

Balance Sheet table with columns for 借方 (Debit) and 貸方 (Credit). Categories include 現金 (Cash), 普通預金 (Current Deposit), 定額貯金 (Fixed Deposit), etc.

以上報告いたします。 財務担当副会長 (高15期) 大島光昭 会計 (高19期) 志賀順子 会計 (高25期) 小合孝子...

訃報 砂川重信先生逝去

定五期 今井 克義

砂川重信先生は、去る八月七日腎不全により逝去されました。享年七十三歳。昭和二十六年三月大阪大学理学部物理学科を卒業...

先生の専門は理論物理学で、特に、量子散乱理論に関して、散乱現象の初期状態(無限の過去)と終状態(無限の未来)での時間変数を量子論によって数学的にどのように取り扱うかに対して、当時広く知られていた散乱の一般論における方法とは異なる、物理的視点に適合した先生独自の極限操作を導入することによって、首尾一貫した一般理論を展開されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。 大阪大学を退官し、同年四月大阪大学名誉教授の称号を授与されました。

平成十年物故者名 (平成十年一月〜十二月まで)

Table listing names and dates of deceased members. Columns include: 高七期, 高八期, 高九期, 高四十五期, 高四十六期, 高四十七期, 高四十八期, 高四十九期, 高五十期.

Advertisement for Kansai Kosaido. Text: 同窓会・学校のトータルパートナー/関西廣済堂. 母校の歴史的資産を築きます。 栄えある周年を語る記念誌と、同窓会名簿の制作は関西廣済堂におまかせください。 郵便物に関するあらゆるお手伝いも、年間500万通の投函実績を誇る、当社のメーリングサービスをご利用ください。

同期会報告

豊女一期生会

入江 量子
平尾 和子
越水 ユリ

平成十年十月十三日(火) 豊中駅前から歩いて三分の「ホテル・アイボリー」にて五十三名出席(出席予定者五十七名のもとに一期生会を開くことができました。

昨年創立六十周年記念パーティのあと、丸ビル三十階に集まった二十名による「一期生・お茶のみ会」で相談して「来年は九月の末豊中で開きましょう」ということになり、い、だしべえが幹事役をかってたようです。

卒業して五十六年が経ちます。山あり、谷あり、空襲あり、地震ありの人生を歩んできて、「古き友は金」のことばをかみしめた一過でした。過去数十回開かれてきた同期会ではあります。が、初めて出席された方や、十年以上も会ってなかつた方々との、その日のご縁を、お互いに慶びあったことでした。



先生方には、ご案内の時点で、

「メッセージ」だけをお願いするという大失礼をいたしました。そのことを喜んで下さった先生もいらして、ホッとしました次第です。年を重ねることの厳しさをお互いに実体験していること、なせる業です。どうぞご寛容下さい。

宇野先生・志賀先生・酒井先生・阿部先生・北村先生・井上先生・仙台先生・沼津先生・橋本先生・豊中からお寄せ下さいました。本当にありがとうございます。メッセージはプリントして参加者に配り、先生方には当日の写真と名前書きを添えて送りました。

来年の幹事は阪急沿線「伊丹」方面の方々です。年に一回の「豊女一期生会」に出席したいというハリを持ちましょう！
明朗・敬虔・奉仕の心は今になっても私たちの中に生き続けていると思われませんか？もう一寸がんばりましょう！

高女二期生会のご報告

神保 和子



高女四期生会報告

渡邊 順
三戸 敦子

平成十年六月六日、大阪市内北区にある「ザ・リッツ・カールトン大阪」のテラスルームで同窓会を行いました。先生方は御高齢と遠方にお住まいなので今回は御招待致しませんでした。が、酒井先生は長野の自宅でお元気との通知を頂きました。二十九名集まり部屋は広くて四箇の円卓を囲み、会話はやはり女学校時代の話はずみ、皆さん年令を感じさせない若々しさで、四時間が早く過ぎたと思います。お喋りだけの会でしたが皆さんのんびり過ごされたのではないのでしょうか。林田和子さん急死されたとの訃報があり、全員健康にはより一層注意する様考えさせられ、来季の出会いを楽しみにして散会致しました。

平成十年九月十八日に、私達は卒業五十五周年を記念して天満橋の「帝國ホテル大阪」で二期生会を催しました。

北は山形をはじめ遠くから近くから大勢御参加下さいました。前回の二期生会から五年余り経ちましたが、今回は杖を持参して参加された方を数人お見かけし、又この頭髪が痛くなったよ、という話題も出ました。しかし口だけは全員達者で、よく話し、よく食べて楽しい楽しい時間を過ごしました。遠来の方はそのままホテルへ宿泊され、誘われて飛び入りで一緒に泊まる方もおられたようで、二次会、三次会が続いたことでした。

豊中高女在学五年間を、同じ釜の豚汁で育った私達ですもの次回に備えて足腰鍛え、元気な笑顔で又お会いしたいのでごさいます。

平成十年十月十五日(木)、宝塚市湯本町ホテル若水にて、奥村朗子先生、中川貞子先生をお迎えし、古希の祝い会として、四十八名が参加致しました。



高女五期同期会

幹事一同



和室でそれぞれ席に着き、先ず同期の仲間、既に物故者になられた四十余名の方々を偲んで黙祷を捧げた後、宴席となりました。

先生方に御挨拶をお願いし、運ばれてきた「いおり弁当」を頂き乍ら、参加者全員にマイクを廻して、近況を語り合いました。

ひと刻が過ぎ、席をサロンに移して、食後のコーヒー(紅茶)を頂いて、又次の出逢いを約束し、炭酸煎餅をお土産にお持ち帰り致しました。次回は、二十一世紀になってからの開催になりますが、芦屋、西宮、尼崎方面の方々が、お世話役をお受け下さいました。その時まで皆元気でお出逢い出来る事を念じ乍ら、ご報告を終わります。

高女七期同期会(平成十年)

森脇 晴子

年初に尚和会の御清栄をお慶び申しあげます。

さて私達豊中高女七期生(桜塚高校一期)は一九九八年四月九日卒業五十周年記念同窓会をリーガロイヤルホテル堺で行いました。恩師関俊一先生が八十五才のお元気なお顔で御出席下さり四十二名あいまい集い旧交をあたためました。五十周年記念として講演会を講師森田兼夫先生をお迎えして、歴史的案内お話しとスライドで行い、終了後隣接のポスタルビル16階で与謝野晶子展とミュージアム展をみました。

七期会は大阪市内か北摂方面の会場が多かったのですが今回堺の地で晴天ならば東に和泉の山々から仁徳陵の緑を、西は明石海峡

大橋を銀線の様に遠望し、ちぬの海を見渡しての立地でございます。が、当日無情の霧にはまれました。室内にぎやかに談笑の時をもち感謝のうちに十一年春の集いを期して散会致しました。



高女七期同期会(平成十一年)

幹事一同

平成十一年三月二十日、大阪リーガロイヤルホテルで開催しました。

関先生のご出席を頂き、総勢四十七名の集いとなり、皆様近く喜寿を迎える様にはとても見えないう若さで、感心しました。また、美濃真先生の健康に関する有意義なお話を拝聴して、今後の生活にも大変プラスになった事と思えます。次回もより多くの皆様にお会



い出来ることを楽しみにしています。

連絡事項
次期幹事は、現在の尚和会理事、及び評議員で兼務します。

理事 藤井妙子 黒田長子
森田玲子 安達良子
評議員 富田恭子 出口珠子
尚、会員に異動のある場合は、必ず左記へ連絡をお願いします。

〒五〇一〇八八
豊中市中校塚四―一―
大阪府立校塚高校
尚和会事務係
〒五六―一〇〇四三
箕面市桜井―一―一三
安達 良子
電話〇七七―二二三九〇―

「友を偲んで」高四期会報告

世話人 山木 利夫



平成十年度の高四期同期会は、趣向を変えて、卒業後亡くなった友の追悼法要を兼ねて、六月二十七日(土)、高三期の谷田先輩が住職をしておられる冷雲院(大阪市内北区)に五十五名が集まりました。思えば卒業後四十七年、すでに同期生の約十パーセントに当たる三十二名が鬼籍に入りました。

住職の丁寧な法要と講話を聞き、亡き友の思い出を語りながら楽しく会食し、互いに健康に気をつけて、早く逝きすぎた友の分まで長生きしようと誓い合っており、散会しました。

高五期会の皆様へ
高五期 宮口一郎

昨年五月の四十五周年同期会にご出席いただいた五十一名の皆様、ありがとうございます。会

の準備と運営に当たっていただいた皆様方にも、心から感謝致します。ご欠席の方々からも沢山の近況などのお便りをいただき、お礼申し上げます。各テーブル毎に、皆さんにご披露させていただきます。

当日は土曜日であったため、医院経営の方々のご出席が難しかった事や、たまたま中豊島小学校同窓会とちがひ、数名の方がご欠席となるなど、色々不手際があった事をお詫び致します。

会の方は、昨年尚和会会計監査に就任された、毛利正幸君の卓抜な総司会の下、盛會裡になごやかな一日を過ごさせていただきました。

ご自身やご家族のご病気、お怪我で止むなくご欠席となった数名の皆様、一日も早いご回復をお祈り致します。

次回五十周年記念には(或いはその前にも)、より多くの皆様と元氣にお会い致しましょう。

なお尚和会会報は、今年から有料制になり、(年会費千円)。多分、多数の未購読者を生ずる事が予想されますので、五期会の連絡事項は、今後当分の間、年一回程度、「五期会便り」のおハガキをお届けし、尚和会、五期会へのご協力や、会報購読のお願いもさせていただきます。

色々なご意見、お知り合いの方の動静(住所変更その他)など、理事宛にお寄せ下さい。

現理事
岡本茂雄、北之坊英美子(評議員兼)、竹村恵一、林達雄(評議員兼)、細野善三郎、宮口一郎、村上美智子、毛利正幸(尚和会会計監査兼)

高五期連絡先 宮口一郎
事務局は村上さん宅
〇六一八八四四―一八四三

高八期 還暦を祝う会

高八期 森田 司朗

平成十年十月十九日、阪急インターナショナルホテルに於いて、私達高八期生の還暦を祝う会を開催しました。前回の開催は、あの忌まわしい阪神大震災の年、平成七年十一月。

世の中の経済不況と同期生の老齢化? を考えて参加者が少ないだろうと予想はしていたが、当日深夜には大型台風の影響で、例年の三割減であった事は、チョット寂しい思いでした。しかし、卒業後、五回の会会で初めての方や、近畿圏以外からの参加者も多数で、それなりに結構楽しい会であった事は、なによりでした。

卒業後、一〇数名にのぼる同期期会者に対する黙祷の後、司会者より、「卒業後五回の同期会を開催してきましたが、名簿もほぼ完成した事でもあり、また世話役さんのご苦労、参加者の低減などもあり、八期全体の会合は段々むつかしくなってきたので、今後は今までのつながりを軸として、クラス単位、あるいはグループ毎で夫々の集いを持ち、お互いの交流を一層深めながら、美しく歳をとってゆきましょう」との提言があり、天ヶ瀬君の乾杯の音頭により開宴。各テーブルは談笑のウズで沸き返り、例によって賑やかさそのもの。東京より遠来の森本君の指揮で校歌斉唱後、宮武君の閉会の挨拶で祝宴終了。

迫り来る台風を気にしながらも、ホテルのラウンジ、またはバーでグループに分かれて二次会も

キツチリ……。深夜のあの雨風の中、みんなまっすぐ帰ったんやろか……。

なお、尚和会会長の萩野様には今回もまたご祝意を頂戴し、早速ご欠席になられた越水先生からもお祝いを恭納致しました事を報告申し上げます。ありがとうございます。

二十世紀から二十一世紀への懸け橋の集い

高十五期 大畠 光昭

平成十年十一月十四日、十五期会卒業三十五周年記念同期会を大阪北新地にある「ホテルモントレーグランドミアハウス」にて、五年振りに開催致しました。

会が盛り上がったところで、会場内にフォークダンスの曲「オクラホマミックス」が流れたすと、お喋りほどよめきに変わり、どよめきもリズムになって、リズムは輪になって繋がって、連なつた輪はスムーズに回転し始めたのです。「雀舌まで踊り忘れず」の諺どおり、みんな良く覚えていたなあと驚きを禁じ得ませんでした。三十五年前、時間切れで握り損ねたあの美少女Cのあの手を、この日、握ることに成功したのでしようか、B君! 今となっては心配しています。

ともあれ十五期会も恩師高橋桂四郎先生、飯尾和義先生、町野道昌先生、牧末先生、尾田翠先生を来賓とし、八十九名の出席を得て、盛況の内に閉会されました。次回を五年後の二十一世紀平成十五年に予定しております。今回はやむを得ず出席出来なかった方々、次回は必ず再会出来ると楽しみにしております。



大阪府立校塚高等学校 15期会卒業35周年記念同期会

京都物見遊山の旅 (高十六期有志) 坂上喜美子

三月二十日(土)に、十六期の有志で京都の旅を楽しんできました。参加者は関東から五名、関西から十五名。そもそもは、関東の有志の発案で、平成九年十月に、常滑と伊勢をめぐる第一回の物見遊山を開催しており、その旅のオモシロさが忘れられなくて、第二回の開催となりました。

京都駅に全員集合、ひとしきりご挨拶に沸いたあと、京都めぐりのバスへ。関西勢は、近場で観光バスに乗る機会もかえって少なく、清水、金閣、銀閣めぐりも楽しく、三十五年ぶりの修学旅行の趣となりました。その日のお宿は白河院。昔のどなたかお偉い方の別荘であったとのこと、お庭など、なかなか風情がありました。銀閣から哲学の道をとって、お宿までの三分余りのソノロ歩きもいものでした(ほんとはドタドタと歩いた。その日の朝、この旅に参加するため、早朝暗いうちにゴミを捨てに行き、足をくじいたお気の毒な方もおられて……)。

全員で豪華な会席料理を楽しんだそのあとは、昔話に花が咲きました。三十五年前の恋の恨みをごこで晴らそうなんて女性もいたりして、オモシロくて、懐かしいはなしばかりでした。

翌日は、平安神宮へ朝の散策。その後、四条に出て、お茶やさん「洪作」でお昼。食後は、毎月二十一日に開かれる東寺こうぼう市へ。着物のようなコートを買った人あり、また出刃包丁を買って、家族サービスにがんばろうという人ありで、それぞれおみやげを抱えて、「次は秋の三十五周年同窓会でお会いしましょう」と約束をして、家路につきました。

高二十七期 高二十七期 柳澤 勤

全日制二十七期の同期会を昨年八月十五日に、尚和会館で行いました。柳澤千吉先生、牧末勇先生と四十数名が集まりました。近況報告の後、岡町の「さ」とへ席を移し、楽しい一時を過ごしました。十一年度より、学年理事は木谷孝志君、まとめ役としては東克則君が引き受けてくれることになりました。五年位後にまた集まれたらと考えています。

昭和三十三年卒業(定八期) 四十周年同期会結果報告

昨年十一月二十八日(日)十一時三十分より豊中駅前ホテル・アイボリーに於いて、昭和三十三年卒業より四十周年を記念して同期会を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、懐かしい三人の恩師を迎え、速くは宮崎県からも出席されて総勢三十三名が集い楽しい時間を過ごしました。

私達は還暦を迎え、四十年ぶ



高三期会総会のおしらせ

平成十一年十月三日(日) 十一時より
会場 宝塚温泉 ホテル「若水」
電、〇七九七八六〇一五二
会費 男性一万二千元
女性一万二千元
(写真代、名簿代、宴会費)
谷田探成(高三期代表)

同期会予告

幹事 川北(赤松)、今井、小川、大東、田邊

高六期卒業四十五周年記念大会

私たち高六期生(昭29卒)は、一九〇〇年最後の今年、卒業四十五周年を迎えます。
日時 平成十一年十一月二十日(土) 開宴 午後六時
会場 大阪ヒルトンホテル
詳細は、後日各人宛にお送りいたします。
(幹事一同)

みんな集まれ七期生!!

二〇〇〇年、今世紀最後の年。ANNIVERSARY'45' すばいっ

著書紹介

高五期 毛利 正幸

高校五期の三好 誠君とは、机を並べた間柄であったが、永らく共にあうこともなかった。先般開かれた同期会で、久しぶりにかつての童顔を見せてくれた。その後、同期の宮口一郎君から、三好君が「はめられた真珠湾攻撃」と題する著書を出版したので、尚和会会報で書評を掲載してはどうかと提案された。

桜塚高校九期生 還暦祝いの集い 船上パーティー

平成十一年六月六日(日) 時間 AM十一時集合
船つき場 「ルミナス神戸2」で明石海峡ダイナミックベイクルーズ
代表幹事 安浦 果

高六期会総会のおしらせ

平成十一年十月十六日(土) 十二時から
会場 新大阪ワシントン・ホテル・プラザ 階老松・若竹の間に
(新大阪駅南約一〇〇m)
案内状は九月頃に送付致しますので、皆様おさそいあわせの上、多数ご参加下さい。

高六期卒業四十五周年記念大会

田中 渡 〇六六八五二一九三
吉田和久 〇六六八五七〇三五二
日時 平成十一年十月十六日(土) 十三時から
会場 日清食品本社ビル
阪急南方駅下車徒歩五分
地下鉄御堂筋線西中島南方駅下車徒歩三分
詳細については、後日案内状を送付予定。
皆様おさそいあわせの上、多数ご参加下さい。

これはユニークな歴史書です。

公開された資料の大胆な情報処理で浮かび上がる決定的真実!

あなたは読後感をお寄せ下さい。
「日本人のお人好しをなんとかしなければなりません」(中山マサアキ 議員)
※注文はFAX.06-6380-5459 (高校五期 三好 誠)

彼は、高校卒業後関西大学で学び、現在損害保険代理店の共同事務所を経営する傍ら、フジモリ支援のNGO活動や海外からの留学生支援を行うため、フジモリ・インターナショナル・サポートという組織を主催し、精力的に行動

はめられた真珠湾攻撃

Pearl Harbor
歴史の定説に騙されるな! そしてもう一度考えてみよう

さて、おおよそ歴史書を見ると、同じ事案がそれぞれに様々に解釈され、評価され、大きく考へ方が異なるので、私など読むほどに混乱の度を深めるが、この書は当時の米・英指導者の日記、議会証言また判決意見書等を検証し、それを分析しながらまとめていく。アングロサクソンとユダヤの世界支配に於ける執念、グローバルスタンダードのビッグバンドのト大義名分を並べながら、いつの間にか自分のペースに引き入れてしまいう国際金融財閥の手法によって、今また日本経済を簞箒しようとしていることに危機感を持ち、これを真珠湾攻撃が行われた背景に視点をあてて、確認しようとしている。

真珠湾攻撃の歴史的評価は、すでに定着した感があるが、結局強者の論、勝者の論が正義として罷り通っているとも言えるのではないだろうか。
かつて世界中で戦争の絶え間がなかったし、今も続いている。人間の愚かさや貪欲さ、しかもこれが今後も続いていくであろうこととの虚しさはこの書は語っているように思える。

「夢の甲子園」想ひ出す

高十九期 奥田 敏輝

皆さんもいろんな夢を持って
おられると思いますが、私の小さい頃からの夢は高校野球での甲子園出場とプロ野球選手になることでした。

桜井谷小学校四年生の時にプロ野球選手になると作文に書いて皆んなに笑われたのを覚えております。たしか野球を始めたのはこの頃からで、当時は現在のように少年野球やリトルリーグ等のない時代で、小学校の同好クラブのようだったと思います。豊中二中を卒業して桜塚高校に入学し、第一の夢を実現させるべくもちろん野球部に入学しました。

当時野球部は強くて、一年生の時に四回戦迄進み北陽高校に延長戦の末敗退、二年生の時は三回戦で浪速高校と同じく延長戦で三対四で負けました。これで甲子園出場の機会は残り二回となり、当時立命館大学生だったOBでもある大園博明さん（私が入学した時の主将）が監督となられ、その指導のもと甲子園を目指し毎日猛練習をしました。只当時は私学七強の全盛期。桜塚高校野球部は十二名と少なく、グラウンドの割当て等で週二日、日に三時間の練習に限られており、私学との差は開くばかり。それでも「ミスを少なく失点を最小限にすれば道は開ける」と大園監督の方針で守りに重点を置いた「短期集中型」の練習を積み重ね、今にして思えば部員が少人数だったのが幸いし、効率的な練習メニューが部員全員に浸透し個々のレベルアップに成功したと思います。

そのかいあって選抜出場があった秋季大会ではベスト8迄進み強豪大鉄（現阪南大高校）と接

戦の末〇対一で敗れ、敗れはしたもののその手応えは全員感じました。春の選抜出場は果たせなかったがその後、春季大会でもベスト8迄進出または強豪近大付属高校と対戦し、これも接戦のすえ四対五で敗れましたが、最後の夏の大会ではひよっとすると甲子園出場という夢が実現出来るかもという希望が持てました。そして最後のチャンスでもある夏の大会に向け猛練習に励み練習試合通算二十勝五敗の成績を引っさげて夏の大会を迎えました。

新聞でもタークホースに取り上げられ、公立校ではもちろんNo.1、アンケートにおいても桜塚甲子園出場に二票入り、私学七強の一角を崩すのは桜塚という評価を得るまでになりました。一回戦の箕面自由学園を1対0で破り、淀商10対0、泉尾工業4対0、北野1対0、準々決勝では都島工業と延長十五回の末三対0で下し、果たせなかったベスト8のカベを破り準決勝迄駒を進めました。

その準決勝では、私の運命的な出会いとなったあの江夏の大阪学院と対戦することになりました。当時から江夏は超高校級と言われ、大会でも五試合で被安打十、奪三振七十二と抜群の成績、高校生ではまずあのスピードボールは打てないであろう、決勝に進出するのは大阪学院という評判でした。当日試合が始まり打席に立つと今迄経験した事が無いような、バットに当たるような気もしなかつた。

ところが幸運に恵まれ、相手のエラーで貴重な一点をもらい、

一対〇で大阪学院にも勝ち、ついに決勝戦。あと一步で全部員の夢にまで見た甲子園出場が目前になりました。

決勝戦当日グラウンドに入りスタンドを見上げるのとビックリ、桜塚全生徒が応援に来てくれてるのはと思う程応援席は超満員。全員身震いしたのを今でもはっきり憶えています。試合は互角に戦っておりましたが五回途中で雨が降り結局六回でノーゲームとなり、翌日二回目の決勝戦に臨みました。当日連戦の為全員非常に疲れ、当日連戦の為に非常に疲れ、北陽高校に〇対四で負け、部員全員と私の夢である甲子園出場は残り



員今でも集まった時、話しております。その後、私はドラフトで指名された江夏と共に阪神タイガースに入団し、私の第二の夢を実現することが出来ました。私は六年で退団しましたが、江夏はご存知のように大スターの道を着実に歩んでいきました。彼とは今でも彼が大阪に来た時は食事やゴルフをしたりして付き合っており、平成八年の選抜大会に大阪学院が出場した時、ある雑誌の取材で対談した際江夏が私に「三十年前のメンバーで準決勝の再戦をやるうぜ」と言い出し、平成八年十一月に豊中ローズ球場に当時のメンバーがユニフォームを新調し全員揃い試合をしました。

当日は新聞に掲載されたせいで二千人という大観衆、OB諸氏も沢山応援に来ていただきました。三十年経過していても全員年を忘れて青春時代に戻り必死で球を追っておりました。私と江夏も約束通り三回ずつ投げ合い、結果は五対五の引き分けて終了しましたが、試合後、彼は「疲れたけどこのメンバーで野球するのは最高の気分、自分達の青春そのものや」と語っておりました。「ただ引き分けが気に入らん、桜塚に勝つまでやる」といつて昨年もローズ球場で再々戦しましたが、またしても桜塚が勝ち、よほどくやしのか、いつ迄続くのか分かりませんが、今年も十一月にローズ球場にて試合する予定であります。

ところで昨年夏の大会が始まる前の六月にABCラジオの「中原秀一郎のラジオトゥデイ」という番組に出演させていただき、

今年の桜塚はどうですかと聞かれ、今年は強いのでベスト8位は行けると思いますところ、皆様もご存知だと思いますが昨年の夏の大阪予選では南北に分かれたとはいえ、三十二年振りに決勝戦まで進出し、私共の夢であった甲子園出場が後輩達の手で達成出来るかなと思われましたが、残念ながら関大一高に奇しくも私共が負けた決勝戦と同スコアの〇対四で敗れ、後輩野球部員と私共の夢を砕きました。

さて、現在の野球部の状況ですが、昔と違って一、二年生部員が四十数名、マネージャー十名という大世帯です。グラウンドの使用条件等は昔と変わっており、練習は十分ではないと思われ、昨年の先輩達は公立校のいろんなハンディの中、決勝迄進出し、後輩部員達に何かを残して欲したはず。それを支えにして、和田監督、浅沼部長のご指導のもと日々練習に励み、先輩達の成し得なかった甲子園出場という夢に向かって邁進して頂きたいと思っております。いつの日か甲子園の応援スタンドで桜塚高校の校歌が歌える日が来る事を祈っております。最後に、私自身「もし生まれ変わったら、桜塚のユニフォームを着て今こそ甲子園のマウンドに立つてみたい」

ご婚礼・ご宴会・会議
ご予約承り中
ホテル アイボリー

◆阪急宝塚線 豊中駅前◆

お申し込み 予約直通06(6849)5040
お問い合わせは 代表06(6849)1111

〒560-0021 豊中市本町3丁目1-16

- 定一六期 森島作蔵 千円
- 定一八期 小畑三千代 八千円
- 定一九期 内藤博行 二千円
- 定二〇期 西濱忠利 照内貴子 二千円
- 定二五期 出口敏雄 二千円
- 定二六期 市川光義 千五百円
- 定二八期 花田治雄 二千円

お便りから

高女五期 矢野(永野)愛子

昨年五月十八日の創立六十周年記念総会に出席いたしました。恩師、友人との語りも夢の様でした。浜松に住み着いて三十年近くになりますが、大阪の生活は忘れずあります。御発展を祈ります。

高女七期 石田(山崎)マリ子

今春、桜塚高校出身の一色貞輝さんが豊中市長になりました。心よりお慶び申し上げます。在校生の皆様、尚和会一同志を持って頑張ってくださいね。

日本能楽会ワキ方福主流

高校十期 森本幸治

率爾ながら、六月八日付をもちまして、重要無形文化財能楽保持者に認定され、この程、東京千駄ヶ谷の国立能楽堂に於て文部大臣より認定書を授与されました。

- 定三〇期 森田泰史 千円
- 定三四期 半田圭子 三千円
- 定三八期 前川秀夫 千円
- 定四一期 高見 歩 千円
- 定四二期 前川良司 四千円
- 定四四期 苗村 晃 千円

担任であった水田紀久先生からも、我が事のごくお慶びを頂戴いたし、感激も一入でございます。同時に置かれた立場の厳しさもまた格別の思いで受け止めております。

ともあれ、ここまで育てて戴いた多方面にわたる大勢の方々から心から感謝の意を申し上げ、あらためて芸道精進をお約束いたし、我国伝統文化の普及・発展に微力を捧げる所存でございます。

高十一期 福井(城岸)澄栄

猪名川町議員となつて二年目。住民のため日々がんばっております。

高十一期 大岩昭夫

勤務の都合で米國に居住中です。昨年は母校創立六十周年誠にめでとつございます。

高十二期 木田(山上)きぬ子

会報有料化賛成ですが、いったい何人の振込があるか心配です。少部数発行でも意味があるのか、又金銭的にも成り立ちますか？

高十三期 岡田(藤井)豊子
会報ありがとうございました。東京支部が発足され、嬉しく思っております。

高十三期 唐沢 昭

十年分、まとめて納付できるようにしてはいかがですか。

高十四期 安達(伊藤)壽美子

五十年誌をなつかしく読みました。茶道部は健在ですが、山岳部は消えていました。しかし、後藤敬直先生、武井錠一先生が健康の様子、立山、剣、薬師岳の登山を思い出しました。茶道部では裏千家のお家元を訪問し、今日庵の一覺台目の点前座に座り、障子に映る木れ日を体験しました。

高十四期 山本(竹島)文代

平成十年六月梅雨の合間をぬい、級友と岡町商店街、桜塚高校など散策しました。

高十六期 山崎(末谷)紀美子

結婚三十年、子供たちも独立し、夫婦二人だけの生活をエンジョイしています。

高十七期 福本育馬

平成十二年秋頃に第十七期の卒業三十五周年記念同窓会を計画しています。住所異動及び消息の判明した方は連絡下さい。

高十八期 高門(小畑)幸子

会報お送り頂きましてありがとうございます。関西を離れまして二十五年、お便りを頂きますととても懐かしく嬉しく存じます。

高十九期 段中幸代
尚和会会報が毎春届くのとても楽しみにしています。奥田さん、ヒルトンでの同窓会とても楽しい一時でした。

高二十期 山内(新良)和子

会報を送って頂きましてありがとうございます。十年ぶりに日本に帰ってきましたら、又主人の転勤に伴い、ニューヨークに住むことになりました。

高二十期 山口恭史

野球部の北大阪大会とても残念でした。

高二十五期 Sachiko Brooker(若松)

娘祥子ロンドン在住十九年です。会報は中止致します。長い間ありがとうございます。母若松トキ子

高二十八期 鷹岡(吾森)啓江

いつも会報をなつかしく拝見させて頂いております。時々桜塚の前を通りますが、月日のたつのは早いものと感じています。新市長一色さんに期待しています。

高二十八期 橋川(重田)晃代

結婚した時点で尚和会への連絡を忘れ、また、実家も引越したりで連絡先が途絶えてしまいました。この度また尚和会より会報をいただきありがとうございます。

した。感謝です。

高三十期 中畑(山口)靖代

記念CD申し込みます。なつかしい校歌(在籍時から大好きでした)や、箏曲部の後輩たちの演奏等がきけると思うと、とても楽しみです。

高三十期 松本(桂)三保子

なつかしいCD聞かせて頂きしました。校歌や岡町商店街の歌、自分自身もすっかり覚えていました。

高三十二期 中垣 景

いつもありがとうございます。よろしく願います(協力金は、少なくともはすかしなので、「匿名」でお願いします)。チャリティー活動(震災「レインボーハウス」)を始めましたので、余裕がなくてすみません。

高三十二期 長戸(第二)

会報が届くのを楽しみにしています。届くたびに三十二期のクラス会の予定はないかなと見えています。三十二期当時の先生の勤務高校を一度のせてほしいと思っております。

高三十三期 多田(恭之)

いつも会報を送っていたいただきありがとうございます。毎日、岡町駅を急行で通過していますが、たまに歯科通院で岡町下車し、商店街を歩くとなつかしい気がいたします。

高三十三期 大塚(内田)まゆみ

三人の子供の成長を楽しみに、

仕事に家庭にと慌ただしく過ごしています。高校時代は遠い昔のようです……年とつたのかなア。

高三十四期 井上(川北)裕美

桜塚を卒業してから、なかなか大阪へ行けない私にとって、会報は楽しみのひとつです。今後もよろしく願っています。

高三十七期 青木(友政)人美

いつも会報を送っていたいただき、ありがとうございます。私はいつのまにやら三人の男の子の母となつておりました。時のたつのは、はやいものですね。

高三十七期 佐藤 太

いつもごころうさまで。会報が有料になるのは残念ですが、いたしかたないところでしよう。但し、現在の内容で、一、〇〇〇円は高すぎると思います。今回は有料化「初」なので、来年お送り頂く会報を見て、継続するかを決めます。

高四十六期 和泉(垂)希子

会報お送りいただきありがとうございます。毎年楽しみにしておりますので、これからもよろしくお願い致します。

●平成十年卒業、三年五組(五十期)からクラス会費が残ったからと、四千八百二十円を尚和会にいただきました。ありがとうございます。

●皆様、尚和会総会(会報表紙に掲載)にご出席下さいますように。

「楽しかった!」と言われて

高校四期 小川 尚子

尚和会の長い歩みの中に、母校創立四十周年・五十周年・六十周年と大きな節目の行事に、そして何度かの名簿の発行に携わり貴重な経験をさせて頂きました。又、十年間の役員在任中は、多くの方々に支えられ、その時その時の勤めはそれなりに果たしてこれたと思ひ喜んでおります。有り難うございました。

年一回、ずっと続いた手作業・流れ作業の会報発送も業者委託となりました。木村益子会長さんの頃は、学校の北にあった老朽化した尚和会館の二階で、又時には学校の教室をお借りして、昼食はマルイレストランからお鍋一杯カレーを炊いてもらい、御飯にかけるという、今とは違った作業風景も懐かしい思い出です。

今の尚和会議室ができてからは三日も四日もかかっていたの発送も、何かにつけ便利のように改善し、皆様の協力で一日半で、二万三千通の数をこなす手作業は尚和会活動唯一の親睦でした。

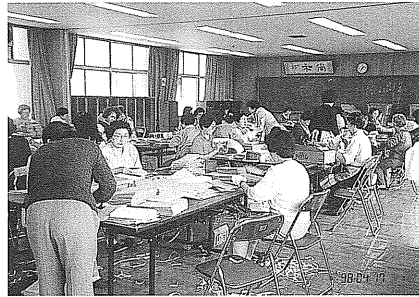
合理化がどこ迄便利になるかはこれからのことですが、時代の流れで機械化が進むことは望ましいものの、親睦団体の繋がりはど



うなるのかしら……手づくり名簿の作成苦労も今では「楽しかった」と力を合わせた者同士の合い言葉です。これからも尚和会は伝統を守りマイナス部分は向上させ、奉仕の精神で活動していくべきだと思います。

会報発送最終の日

三期 若松 栄



毎年、毎年此の日がやって来ました。会報紙を三つ折に封筒に入れ何度と数をたしかめたものです。少し動きのなくなった高女期生も帰る頃にはテキパキ、一仕事しましたさわやかさも味わって帰路につくのがいつもの会報発送の日でした。

これが平成十年四月十七日で終わりました。最後の会場には多くの奉仕者が熱気を持って手を動かしていました。高女一期から高校五十期、定時高卒生が一堂に集まってお喋りにも華を咲かせていたようでした。その皆の心の底には何となく淋しさがあり、此の光景を頭に焼いて置こうと思っっているかに見えました。

長い間役員の皆様御苦労様でした。大変なボランティアに心より感謝致します。

各 期 連 絡 先

期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
女1	越水 ユリ	06-6852-8755	高29	山沢 健二	06-6885-0370	定16	森島 作蔵	06-6857-6219
女2	北川 富美子	0798-74-3024	高30	木村 慶子	06-6853-9213	定17	前田 政治	06-6855-8451
女3	松尾 郁子	06-6336-1765	高31	榎 香世子	06-6393-7216	定18	中島 健二	0727-22-8153
女4	小林 三七子	0797-71-1064	高32	竹田 伊都子	06-6332-4076	定19	飯田 悦弘	06-6855-3440
女5	加藤 恵美	06-6872-6248	高33	池本 清人	06-6866-6789	定20	檉原 洋一	0727-21-1124
女6	青木 操子	06-6843-2552	高34	山口 誠	0720-94-1848	定21	兎谷 幸子	06-6862-1946
女7	黒田 長子	06-6854-5432	高35	川嶋 道代	0727-29-6099	定22	西田 惣一	06-6850-2955
女8	中村 陽子	06-6844-1570	高36	安藤 昌博	06-6832-7930	定23		
高1	安達 良子	0727-21-3901	高37	高崎 建治	06-6623-6801	定24	日紫喜 富美	
高2	菊池 芙美	06-6852-4117	高38	堀田 繁	06-6841-0598	定25	大町 裕次	06-6862-7083
高3	谷田 探成	06-6314-0550	高39	須崎 康広	0727-52-6441	定26	片山 勝重	06-6843-6443
高4	中右 吉信	06-6855-5372	高40	浅谷 美和	06-6862-6896	定27	稲井 幸雄	0727-28-0955
高5	宮口 一郎	06-6852-4859	高41	坂口 大介	06-6303-4831	定28	真下 保悟	06-6385-6190
高6	一色 貞輝	06-6852-3962	高42	東 紀江	06-6371-5696	定29	寒川 悟	06-6607-0580
高7	伊藤 光弥	06-6855-4881	高43	横尾 さち子	06-6854-0026	定30	大漣地 みゆき	06-6333-5761
高8	森田 朗	06-6872-3329	高44	倉谷 実	06-6302-2184	定31		
高9	安浦 泉	06-6855-4486	高45	松井 隆夫	06-6855-7278	定32	高畑 幸三	
高10	唐渡 吉則	0727-52-4548	高46	金森 直人	06-6862-4255	定33	立花 富美佳	0727-61-3323
高11	田中 渡	06-6852-2923	高47	山崎 亮祐	0727-99-5953	定34	清水 美文	06-6864-6366
高12	谷木 光一	06-6855-5858	高48	長嶺 秀則	0727-52-6326	定35	浜田 清文	
高13	細川 和彦	06-6849-6879	高49	中田 照章	06-6333-2749	定36		
高14	吉田 裕理子	0727-51-5687	高50	山崎 祥平	06-6385-4990	定37	渡部 二郎	06-6863-0058
高15	大畠 光昭	06-6841-8135	高51	乗波田 拓也	06-6391-7523	定38	三浦 智幸	
高16	中務 公子	06-6858-4509	定3	上田 孝彦	06-6853-2162	定39	森本 真裕美	06-6849-7859
高17	福本 育馬	06-6333-6636	定4	府上 恵二	06-6852-7122	定40	二宮 千夏	06-6333-1209
高18	北川 悟司	06-6843-1336	定5	橋本 昌員	06-6854-0234	定41	奥田 康弘	06-6388-7339
高19	奥田 敏輝	06-6843-9397	定6	木田 隆幸	06-6864-2452	定42	菊永 以言	06-6853-6877
高20	山中 清利	0727-51-4408	定7	大倉 晴夫	06-6862-5752	定43	井阪 はる奈	0727-23-9616
高21	山本 登志恵	06-6924-3544	定8	高木 清伸	0722-50-6595	定44	大塚 俊二	0727-62-7873
高22	平本 裕一	06-6855-2482	定9	高大 谷取	0720-44-2311	定45	大塩 昇司	06-6331-5766
高23	後藤 保二	06-6373-7380	定10	長野 昌子	06-6844-0473	定46	青木 洋人	06-6862-9946
高24	梅田 純子	06-6329-6309	定11	永井 敏輝	06-6852-0333	定47	桑原 丞	06-6852-0305
高25	原 榎寿子	06-6849-9986	定12	笹部 修造	06-6852-0475	定48	野口 光弘	06-6393-3669
高26	金ヶ江 裕之	06-6852-1224	定13	中岸 澄江	06-6843-5737	定49	大鳥 正登	0727-61-1036
高27	木谷 孝志	0726-27-9059	定14	杉本 生	0727-28-1497			
高28	市田 隆士	0595-52-0715	定15	北浦 修	06-6333-4833			

平成十年度 活動報告について

行事担当副会長 三上 昌昭



昨年四月から尚和会は活動を開始しました。

一、広報委員の方々が中心となつて編集されました会報は総務委員の方々も一緒になつて四月十七日封筒入れ作業を行いました。二万部以上の会報を封筒に入れるのですが、今回は印刷所で三つ折りにしてありましたので一日だけの作業で済むことが出来ました。去年の会報のことです。

案事項、十年度決算、十一年度予算に対し検討、確認、承認等、活発に活動されました。

三、平成十年度の総会、懇親会は五月十七日(日)にホテルアイボリーで開催されました。総会では会長挨拶、来賓祝辞に続いて、交代されました旧役員四名の方に感謝の花束贈呈があり、活動報告に入りました。最初に十年度の活動、及び、決算報告。次に十一年度の活動予定と予算報告がありました。引き続き場所を代えて懇親会が開催されました。会員、来賓合わせて九十七名のご参加を頂き、立食パーティー形式で始まって、一年振りに逢う方、久し振りに来られた方、初めて参加された方と、お酒も少し入って、賑やかに、明るく楽しい雰囲気がいっぱいでした。アトラクションは和太鼓サークル「鼓舞子」が日本の各地に広がる太鼓や踊りを披露してくれました。最後は恒例の福引で皆さん楽しみ、校歌合唱でお開きとなりました。今年の総会、懇親会にも皆様大勢のご参加をお待ちします。



昨年四月二十六日(日)、東京・品川のホテル・パシフィックに於いて、第一回 尚和会・東京支部・総会並びに、懇親会が開

第一回 尚和会東京支部・総会開かる

「関東地区に於ける、同期会開催のプロモートを主題に、同意の輪を拡げよう」
「第一回の総会を、二〇〇〇年、十一月十九日(日)、ホテル・パシフィック(第一回会場と同じ)にて、開催を決定」

尚和会東京支部長 井上 眞一

かれました。一昨年、尚和会初の支部として、発足致しましてより一年、母校創立よりの歴史も、次の七十周年に向けてスタートをしたばかりという時期でもあり、緊張の中にも、支部第一号として踏み出せたという、参加者の喜びが感じられる初会合でした。

ゴールデンウィーク直前ということでもあり、約五十名程の集まりでした。本部より、荻野会長代理として、小川尚子副会長をはじめ、理事数名の参席もあり、お祝いと激励のこたばをいただきました。総会では、

はのフランス料理をゆつくりと味わい、(女性に人気)乍ら、自己紹介や、近況報告がありました。中でも、高女一期の岡本美智子先輩の速方からの参加には、高女期一二十七年迄の参加者全員が拍手、母校という絆でつながっている方々も、その大切さ、懐かしさをあらためて感じた様でした。又一方、参加者からは、同期の出席が少ないことにちよつと驚きの声があり、次回には、是非声をかけ合っていました。支部初会合らしさとも言えるのでしょうか?これを機にこの地域での、同期会が活性化してくればと祈りたい気持ちです。

尚、当会開催に際しまして、やむをえず欠席の多くの同窓生の方々より、支部運営への協力金をお寄せいただきましたこと、支部を代表して、厚く御礼申し上げます。 敬称略

〇役員・幹事紹介(平成十年度現在)

瀨戸屋文(高女八) 名川教子(高一) 足立 宏(高三) 内海順夫(高三) 寺村元宏(高九) 佐藤好夫(高十一) 北村正和(高十四) 黒須益子(高十七) 田中逸郎(高二十七) 野村淳子(高二十七) 以上幹事

このように三十期以降の幹事が未定です。自薦他薦いずれも大歓迎いたします。

次、次の第二回総会(二〇〇〇年)をより充実させる為に、同期会の開催が重要で、現在の、当該地域(一都六県)での同期会開催状況をお知らせ下さい。既存の会、予定されている会の幹事の方、よろしく申し上げます。

〇役員幹事紹介

脇 清人(高七) 神田一三(高八) 岩津泰彦(高十七) 野口雅津子(高八) 杉山直之(高四) 森本行俊(高八) 以上役員

